

# 患者体験調査結果

国立がん研究センター  
がん対策情報センター がん臨床情報部  
渡邊ともね

# 結果の概要

## 2018/12-2019/7調査分

発送数 20,488

参加施設数 166施設

回収数 8,935(回収率43.6%)

報告対象 7,080

内訳

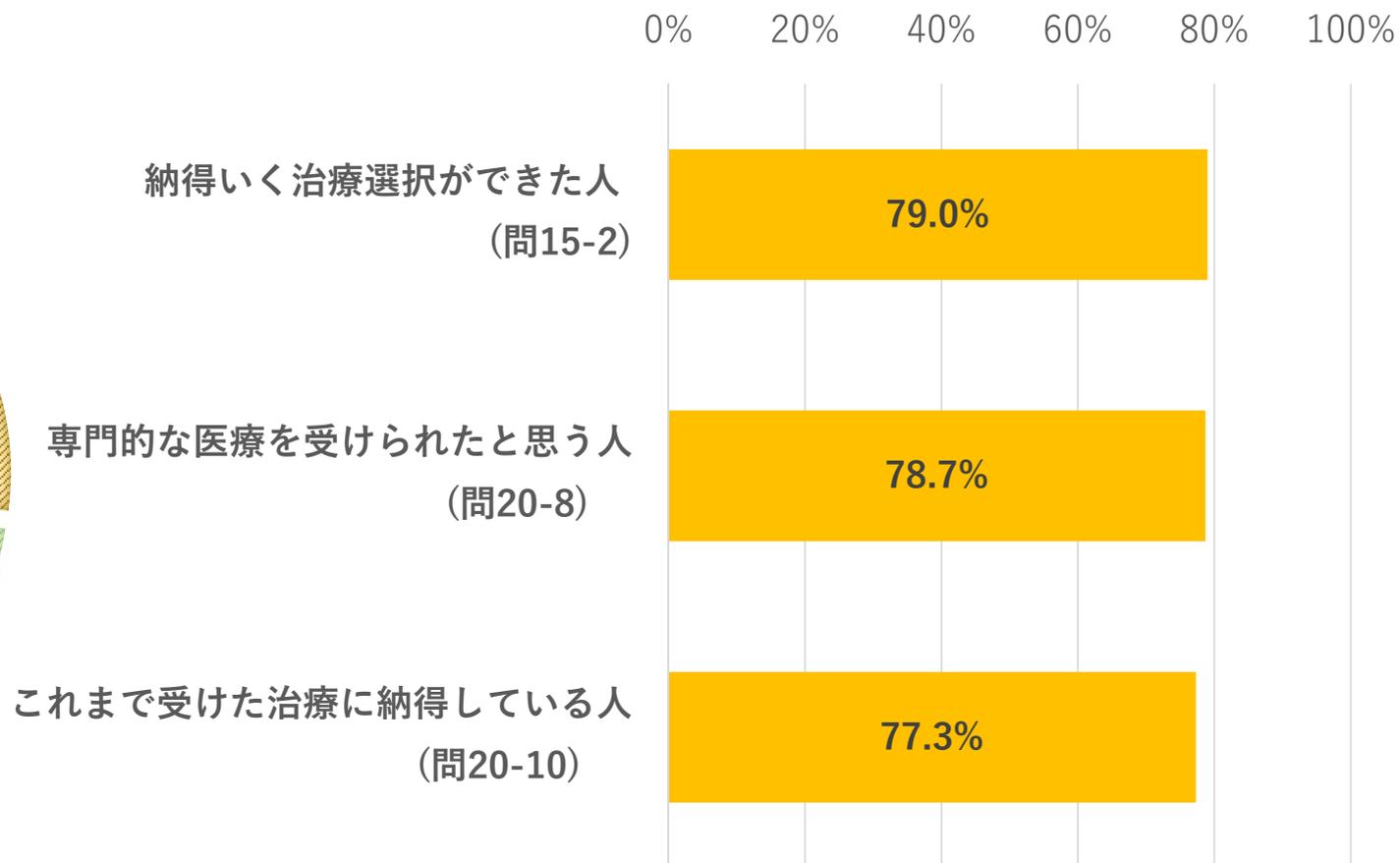
グループ	対象人数
A:希少がん患者	797 (11.3%)
B:若年がん患者	709 (10.0%)
C:一般のがん患者	5,574 (78.7%)

平均66.4歳



# 「受けた医療への総合的評価」

(問23)総合的な評価結果(0-10点)



# 「医療側の説明・対応」

治療決定までに、医療スタッフから治療に関する十分な情報を得ることができた人（問15-1）

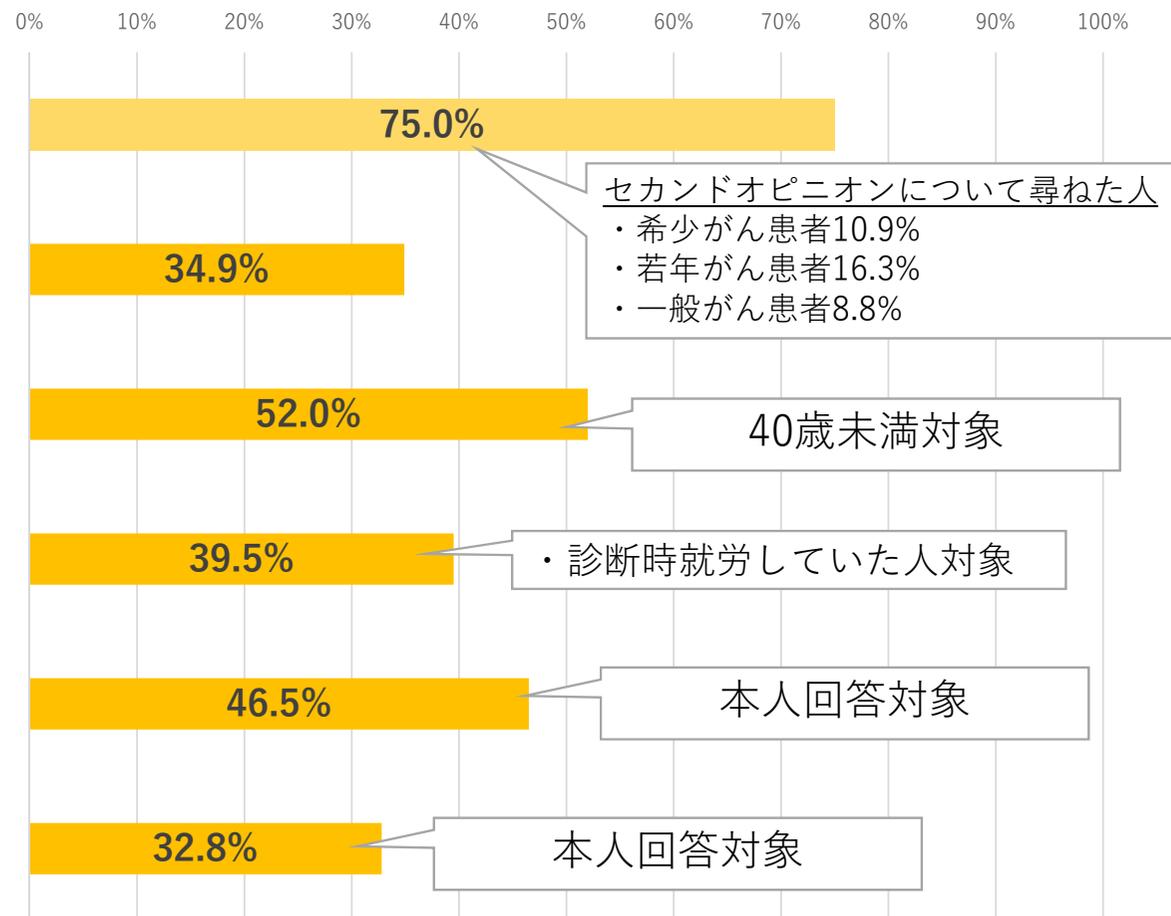
治療開始前に、担当医からセカンドオピニオンについて話があった人（問13）

治療開始前に、妊孕性への影響に関して医師から説明があった人（問16）

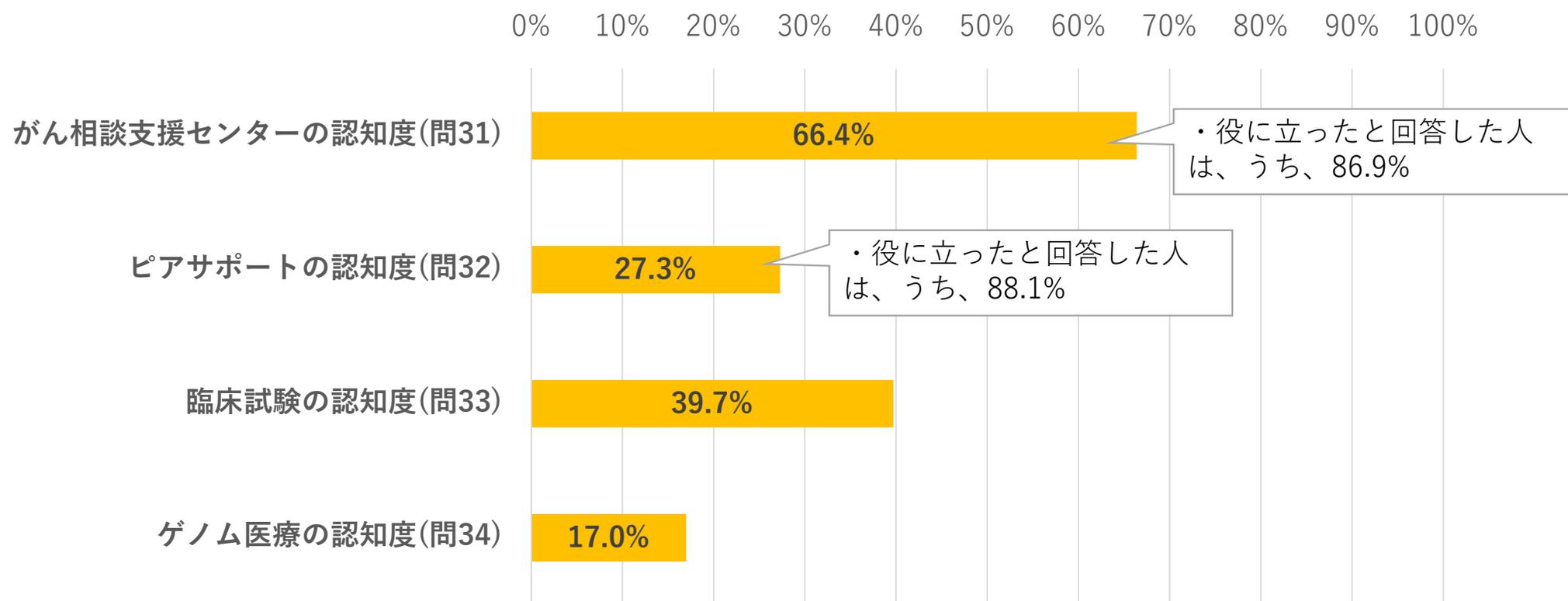
治療開始前に就労の継続について医療スタッフから話があった人（問28）

身体的つらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できると思う人（問35-5）

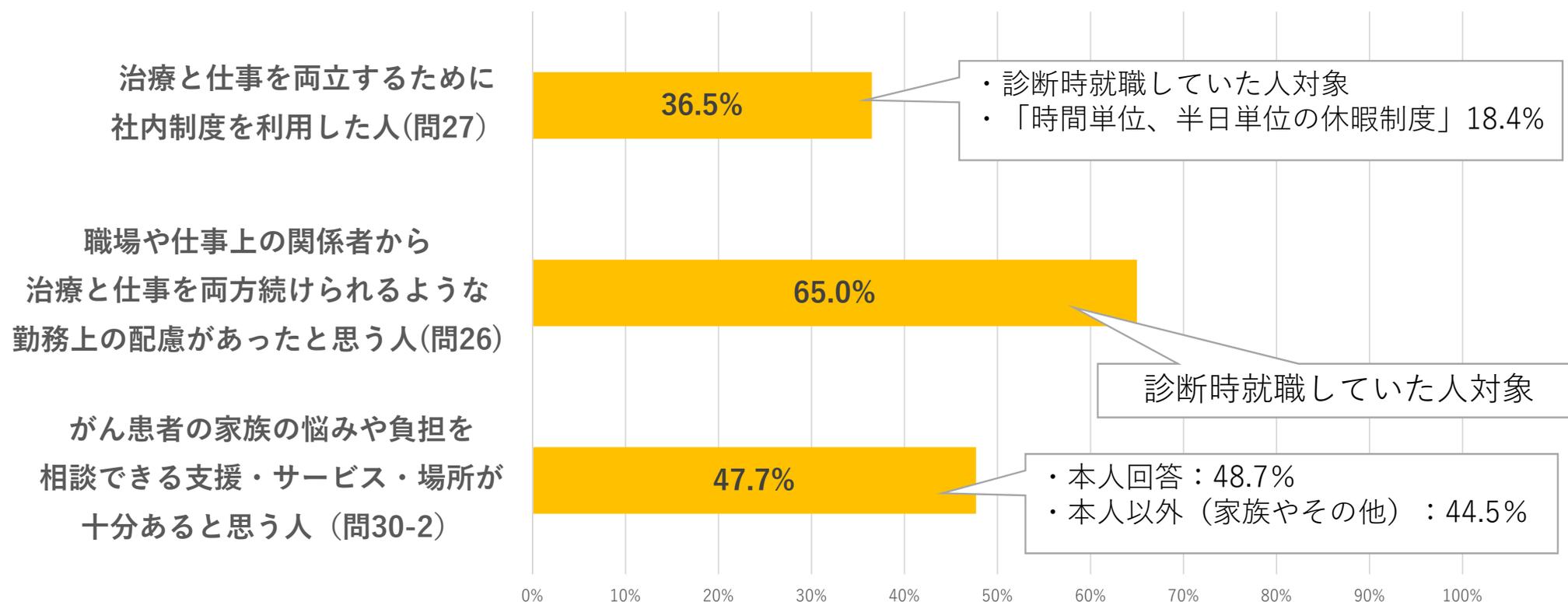
心のつらさがある時に、すぐに医療スタッフに相談できると思う人（問35-6）



# 「各制度・用語の認知度」

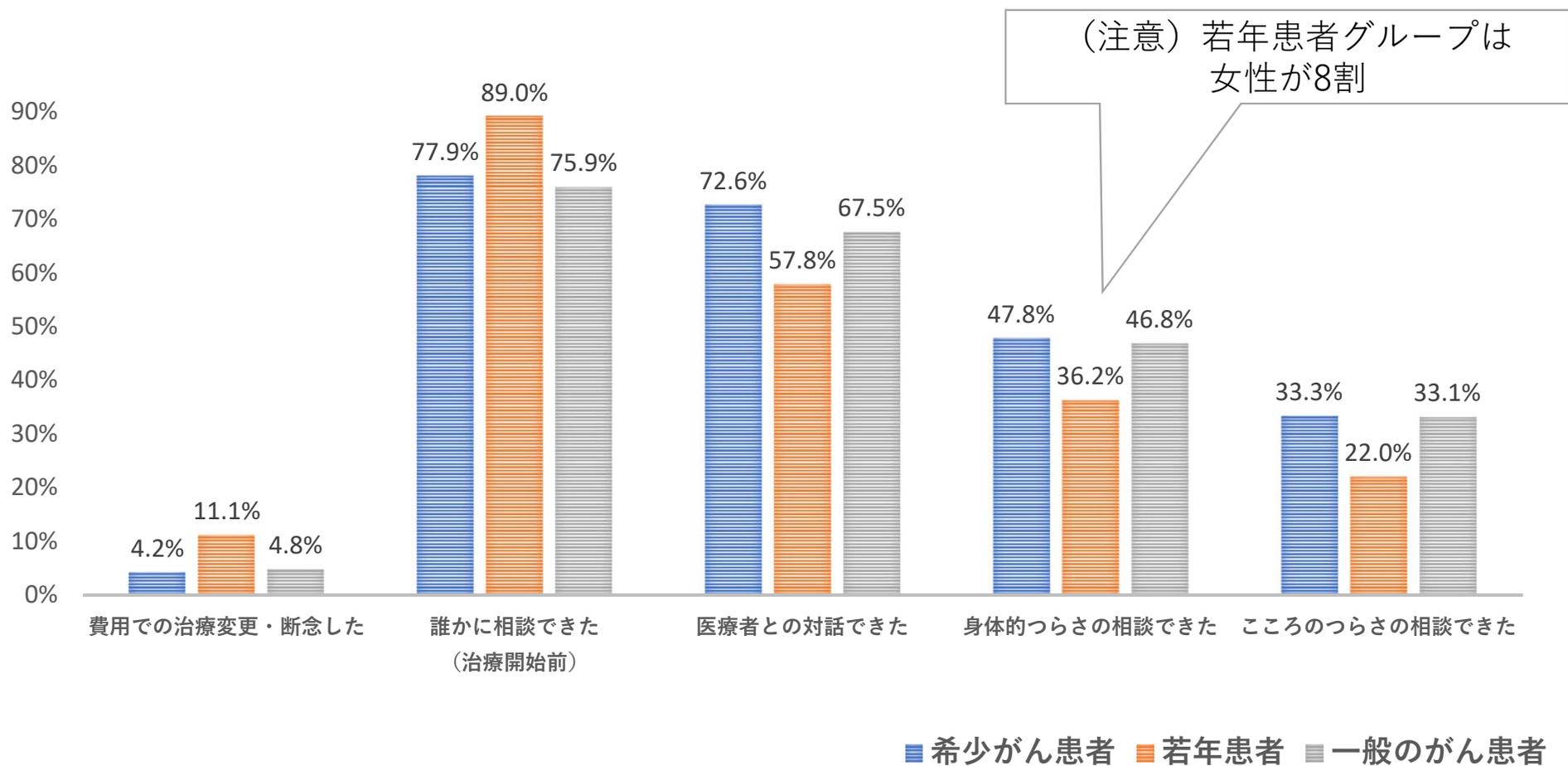


# 「制度・支援の活用」



# 「AYA世代をとりまく状況」

ここでは19~39歳（小児は除く）



# 今後について

○経年的にエビデンスを蓄積し、継続した評価体制を維持する

○分野別詳細解析

- ・ 高齢者
- ・ 地域ごと
- ・ 長期療養患者、がん登録情報との連結可能患者
- ・ 項目別（就労の問題、妊孕性の課題）

など…

○提言書のまとめと公表（研究班）

○小児の患者体験調査は別途解析中

# 謝辞

- 本調査にご協力いただいた病院の関係者の方々、そして貴重な時間を割いてご回答いただいた患者の皆様に心より感謝いたします。
- また、本調査の実施及び報告書作成にあたり、厚生労働省がん対策推進協議会、全国がん患者団体連合会の関係者の皆様、厚生労働省研究班の皆様はじめ、多くの方から詳細なご意見をいただきました。この場を借りて厚く御礼を申し上げます。